第１学年　国語科学習指導案

平成３０年１１月１６日（金）２校時

授業者　　教諭　猿子　栄子

１　単元名　くらべて　よもう　「じどう車くらべ」

２　単元と児童

(１)　単元全体の指導目標

　　　○知識を得るために，事柄の順序を考えながら内容の大体を読み，本や文章から大事な言葉や文を書き抜くことができる。

　　　・事柄の順序に沿って，簡単な構成を考え，文と文の続き方に注意しながら，つながりのある文章を書くことができる｡

(２)　児童の実態（男子１３人，女子１１人，計２４人）

児童は，１学期に「くちばし」，２学期に「うみのかくれんぼ」で説明文の学習をした。「じどう車くらべ」は，３つ目の説明文の学習になる。「くちばし」では，問いかけと答えが３回繰り返されている文章を学習し，「うみのかくれんぼ」では，「問い‐答え‐答え‐答え」で説明されている文章を学習した。これらの学習で，説明文では，「問い」「答え」の順番で文章が書かれていること，同じような文型が繰り返されて分かりやすい説明になっていること，「問い」の文章の文末表現と「答え」や「説明」の文章の文末表現は違うことなどを学習してきた。

説明文は，問題の答えを探しながら読み進めることから，児童はクイズに答えるような感覚で楽しみながら意欲的に学習に取り組んでいた。そして，本文を読みながらキーワードを囲んだり，読み取ったことをワークシートに書き抜いたりする活動もできるようになった。授業中，意欲的に挙手して発表する児童は，全体の三分の一位である。自信がなく発表できないでいる児童もいるので，発表の前には隣の子と相談する時間を設け，自信をもって発表できるようにしている。

(３)　単元構成

　　　　　　「じどう車くらべ」は，「うみのかくれんぼ」と同様に，「問い-答え-答え-答え」という列挙型の構成になっている説明文である。「どんな仕事をするのか」そのために「どんなつくりになっているのか」というように，問いが２つあり，それぞれの自動車についての答えが２つの段落に分けて書かれている。「しごと」と「つくり」を表に書き抜いて整理させることで，２つの関係性をしっかりと理解させたい。そして，「バスや乗用車」「トラック」「クレーン車」の３つを比べることで，自動車の「つくり」の違いは，「しごと」の違いによることを理解させたい。そして，それぞれの自動車が「しごと」をするためには，その「つくり」が必要であることを考えさせ，「そのために」という言葉が，仕事と作りを関係づけている大切な言葉であることにも気付かせたい。

　　　　　　さらに，本単元の最後では，説明文を読み取り，そこで学んだ文章の形式を生かして，自分でも好きな自動車を説明する文章を書く活動を行う。学習の初めに「じどう車ずかんをつくろう」というめあてを示しておき，「じどう車ずかん」を作るために，分かりやすい説明の仕方を学ぼうという意欲をもたせたい。

３　単元の指導計画（全１２時間）

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 次 | 時 | 主な学習内容 |
| 第１次 | １  ２ | ・　知っている自動車について話し合う。  ・　図鑑と「じどう車カード」例を見て，図鑑作りの意欲をもつ。  ・　１段落の範読を聞いて，学習課題を設定する。 |
| 第２次 | ３ | ・　「じどう車くらべ」を読み，気付いたことを話し合う。 |
| ４ | ・　バスやじょうよう車の「しごと」と「つくり」を比べながら読む。 |
| ５ | ・　トラックの「しごと」と「つくり」を比べながら読む。 |
| ６ | ・　クレーン車の「しごと」と「つくり」を比べながら読む。　　(本時) |
| 第３次 | ７  ８ | ・　はしご車の「しごと」と「つくり」を，考えて書く。  ・　「はしご車」が，図鑑や本などにどう書かれているかを確かめる。 |
| ９  １０ | ・　自動車の図鑑や本から，書きたい自動車を選んで読む。  ・　「しごと」と「つくり」をノートに書き抜く。 |
| １１  １２ | ・　画用紙に自動車の絵を添えて，清書する。  ・　目次や表紙等を付けて，自動車図鑑を完成させ，読み合って，感想を伝え合う。  ・　学習を振り返る。 |

４　本時

　（１）　ねらい

　　　　　　クレーン車の「しごと」と「つくり」を理解することができる。

（２）　構想

　　　①　学習課題設定のための仕掛け：挿絵を置き換える。

初めに教科書と違うクレーン車（車体に足がついていない。腕が細くて短い。）の挿絵を提示する。児童は，すぐに「このクレーン車はおかしいよ。」と，絵の間違いを指摘するだろう。そこで，「どこがおかしいのか。」教科書の絵と比べたり，本文に書かれている文章と対応させたりしながら説明するよう働き掛け，クレーン車の「しごと」や「つくり」をしっかり読み取ろうという意欲を高めたい。

　　　②　学び合いのコーディネート：考えのヒントや，考えの深まりを共有させるために

　　　　〇　隣の児童と相談する時間をとる。

　　　　　　　全体での発表の前に隣の児童と相談する時間を確保する。互いの考えを聞き合い確認し合うことで，児童が自信をもって発表できるようにしたい。また，全く考えが思い浮かばない児童も数人いると予想される。隣の児童から教えてもらうことを自分の考えをもつための手助けとしたい。

　　　　〇　児童の答えに揺さぶりをかける問いかけをし，理解を深める。

　　　　　　　「クレーン車に足は必要なのか。」「クレーン車の腕が短いとだめなのかな？」などと問い返すことで，教科書の挿絵や叙述に関連付けながら，なぜクレーン車には丈夫な腕やしっかりした足がついているのか考えさせたい。そして，「丈夫な腕」と「しっかりした足」は，「重い物をつり上げる仕事」をするクレーン車にとっては大切な「つくり」であることを理解させたい。

　　　③　教材・教具の準備

　　　　　・ワークシート(児童用)　　　・本文を拡大したもの

　　　　　・拡大したクレーン車の挿絵　クレーン車の挿絵（車体に足がついていない。腕が細くて短い。）